

# 地域づくりの現場から

全国協議会登録団体の紹介

## おもしろ人立 めだかの学校 (静岡県森町)

### 団体プロフィール

設立年=1993年9月

代表者=事務局長 榊原幸雄

構成人数=130人

〈連絡先〉

静岡県磐田市家田529-20

TEL 0539 (62) 6691

### 誰が生徒か先生か？

「おもしろ人立めだかの学校」は、川の中ではなく森の中にあります。そこは「遠州の小京都」と呼ばれる静岡県森町。のどかな町並みの一角に学校拠点はあり、3月、6月、9月、12月の第一金曜日が基本の開校日です。その日は生徒の「めだか生」たちが続々と集まってきました。めだか生の年齢層は30〜80代と幅広く、

## 共に学び一緒に育む

## 楽しむ心が元気の秘訣

おもしろ人立めだかの学校

● 水島 加寿代

職業も農林業従事者や議員、アーティスト、主婦など実に多様です。

「誰が生徒か先生か？」と歌にもあるように、授業は校長を含む先生と生徒が入れ替わりながら進行します。動植物や食の話題など自分の得意分野を発表する人もいれば、環境や時事問題など気になるテーマを取り上げて発表する人も。ときには、楽器演奏などの実技をしながら体験実習を行う人もいます。

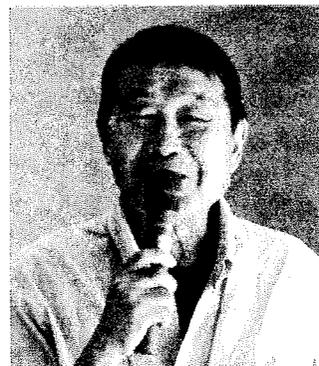
毎回、事前に「職員会議」と題した打ち合わせ会を開き、担当する先生方と有志が「どうしたら有意義な時間になるか」をじっくり話し合うのでマンネリな授業にはなりません。これまでの105回（令和元年9月現在）の授業全てで、めだか生は「ワクワクと感動」を与え、与えられてきました。

### 誕生のきっかけ

めだかの学校の誕生は今から約30年前に遡ります。当時、静岡県西部をフィールドに活動していた地域おこしのコンサルタントが、中山間地域の小さな町役場に街を活性化させる方法として「人材育成」を目的としたこの学校の設立を提案しました。しかし、あまりにも多彩なプログラムだったため、「とても町では手に負えない」と実現は見送られました。

その後、「バラさん」の愛称で慕われ、現在まで事務局長としてめだか生を牽引してくれている榊原幸雄さんがこの企画を復活させました。

バラさんは定年まであと8年という時期に、「どうしてもサラリーマンではない違った人生を歩きたい」と勤務していた新聞社を退職し、当時、遊休施設になっていた旧引佐町の自然休養村センターの支配人として第二の人生をスタートさせていま



我らめだか生の牽引者  
榊原幸雄事務局長

した。そのセンターで学校設立の企画を具体化させることになり、前述のコンサルタントとバラさんに2人の有志を加えた4人が中心となって、平成5年9月にめだかの学校を開くことになりました。

### 教育ではなく「共育」

初回の授業は、4人がそれぞれ10人ずつに声を掛けて40人を集めようと計画しましたが、予想を上回る57人が参加しました。2回目は80人、3回目は100人、4回目は120人と参加者がどんどん増えていったため、めだか生をまとめるための「決まり事」も定められました。

まずは基本理念として、先生・生徒という上下関係を意識しないで、互いの人格や技量を尊敬し合うことが決められました。この理念は、めだかの学校が「教育」ではなく「共育」の場であることを示すポイントです。

また、めだか生になるには自ら入学希望を伝え、めだかの先輩生徒2人以上の推薦がなければならぬと校則にうたわれました。加えて毎年届けを提出して生徒の資格を得る必要があり、それが滞った生徒はめだか生の資格がなくなつて名簿から削除されます。めだかの学校の秩序を乱したり、学校の名譽を傷つけたたりした生徒は「退学」を命じられることもあります。

決まり事を守るベースがあつてこそ自由空間であり、こうした考え方を持った生徒の集まりがめだかの学校なのです。

### 手作り給食

めだかの学校は給食も特徴的です。給食チーフを中心に給食当番たちが授業時間より早く登校し、旬野菜を使った愛情たっぷり弁当を作



通常授業の様子  
人の話にはしっかり耳を傾けます



当番さんの愛情たっぷり手作り給食



100回記念には  
全国各地から仲間が集まりました

ります。談笑しながらのクッキングタイムはめだか生たちが絆を深める絶好の時間です。食べる前には当番が全員前に並び、「私はきゅうりを切りました」「○○さん差し入れの玉ねぎの皮をむきました」など、何の調理を担当したのか発表するのが恒例で、皆で心をひとつにして手を合わせ、作ってくれた人に「いただきます」と感謝します。

これらの給食や授業の運営費は、年会費の1000円と毎回の参加費3000円で賄われています。

### 特別企画も多彩

めだかの学校は、通常の授業以外にもさまざまな活動や企画を行ってきました。

全国各地で開催される地域づくりフォーラムや交流会などへ積極的に参加してめだかの学校を発信しま



水源まつりでは筏で湖上に漕ぎだした!



授業の最後は円になって皆で握手

す。それにより、全国にめだか生の仲間の輪が広がり、そうして集まった各地の仲間の所へ出掛けたこともありました。

また、困っている仲間がいればチャリティコンサートを開催して援助したり、生徒たちの陶芸やイラスト作品などを展示して文化交流したり、ゲストを招いて講演会を行ったり、「こうしてみない?」という発想が浮かべばすぐに仲間が集まり、協力して楽しみながら発想を実現させてきました。

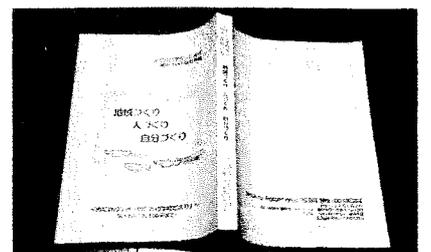
平成19年8月には「都田川水源まつり&菜の花プロジェクト」と題し、自分たちの水源を見詰め直す企画を地元の団体と共催で実施しました。プロジェクトでは、川の源流地点までウォーキングしたり、ダム湖の魚種を調査したり、竹のいかだを作つて湖面に浮かべ

漕いだりしました。このプロジェクトは皆で力を合わせなければ決して実現できなかったでしょう。

### 好奇心と協力精神は永遠に

めだかの学校は、一人ひとりがさまざまな好奇心と信念を持つて動いています。そして「あれやってみない?」「これ一緒にやろうよ」といった提案に協力し合いながら企画を実現させてきたのです。

この姿勢で歩み続け、めだかの学校は27年目に突入しました。今や静岡県西部だけでなく全国、さらには世界に仲間がいます。そして、あの世で見守ってくれている先輩めだか生との絆も強力です。このすばらしい「おもしろ人」のネットワークが地域のパワーになると信じ、めだか生はこれからも一緒に泳ぎ続けます。



25周年には「めだかの学校だより」を  
纏めた冊子を発行